

(様式2)

指定管理者制度導入施設の管理運営状況【対象年度:平成29年度】

※1～6:所管課記入、7:指定管理者記入、8～9:指定管理者及び所管課記入、10:指定管理者及び所管課記入(実施した場合)

所管部・課	県民文化部文化政策課
指定管理者	一般財団法人長野県文化振興事業団

1 施設名等

施設名	長野県県民文化会館(ホクト文化ホール)	住所	長野市若里1-1-3
		電話	026-226-0008
		ホームページ	http://www.n-bunka.jp

2 施設の概要

設置年月	昭和58年4月	根拠条例等	長野県文化会館条例
設置目的	県民の文化の振興と福祉の増進を図るため設置する。		
施設内容	・大ホール(2,173席)・・・舞台設備、音響設備、照明設備、楽屋(8室) ・中ホール(1,070席)・・・舞台設備、音響設備、照明設備、楽屋(6室) ・小ホール(300席)・・・舞台設備、音響設備、照明設備、控室(2室) ・リハーサル室、展示室、会議室(4室)、レストラン、喫茶室、駐車場(普通車216台、身障者用5台、バス20台)		
利用料金	大ホール(44,000～531,000円)、中ホール(24,000～288,000円)、小ホール(5,500～65,000円)、楽屋(1,200～6,800円)、リハーサル室(5,000～21,200円)、展示室(14,000～22,000円)、会議室(2,300～17,700円)、その他「附属設備」「冷暖房」「持込電気器具電気料」など		
開所日	毎週月曜日、祝日の翌日及び年末年始(12月28日から1月3日まで)を除いた日 (ただし、繁忙期(10～11月)は各月2日休館。その他、利用者の要望により休館日を変更)		
開所時間	9:00～21:30		

3 現指定管理者前の管理運営状況

期間	管理形態	管理受託者又は指定管理者等
～平成17年度	管理委託	財団法人長野県文化振興事業団
平成18年度～20年度	指定管理	財団法人長野県文化振興事業団
平成21年度～25年度	指定管理	一般財団法人長野県文化振興事業団

4 報告年度の指定管理者等

指定管理者	一般財団法人長野県文化振興事業団	指定期間	平成26年4月1日～平成31年3月31日(5年間)
選定方法	非公募		

5 指定管理料(決算ベース)

平成29年度(A)	平成28年度(B)	差(A)-(B)	※(A):当該年度、(B):前年度(以下同じ)
198,649千円	194,847千円	3,802千円	
増減理由	平成30年1～3月における改修工事で休館となり、その際に減収となった利用料収入を補填したため。		

6 指定管理者が行う業務

<ul style="list-style-type: none"> 施設及び設備の維持管理に関する業務 文化会館の利用の許可及び利用料金に関する業務 芸術文化の振興に資する事業の企画及び実施に関する業務 上記業務に附帯する業務
--

7 利用実績等

(1) 利用実績【指標:大・中・小ホールの平均稼働率・・・利用日数÷開館日数×100】 (単位:人、件、%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成29年度(A)	51.3	57.6	80.0	89.3	75.6	57.3	75.0	79.0	79.4	-	-	-	71.6
平成28年度(B)	47.5	54.6	74.7	93.8	69.3	72.0	78.2	66.7	84.6	-	-	61.1	70.3
(A)/(B)	108.0	105.5	107.1	95.2	109.1	79.6	95.9	118.4	93.9	-	-	-	101.9
増減要因等	前年度と比較し、9月は中ホールでのコンサートや演劇公演が減少したことや小ホールで例年開催の行事が別の月に移動したこと等により14.7ポイント減となった。11月は12.3ポイント増となったが、大ホールで前年度は取消し件数が多く利用率が低かったこと、中ホールは大会利用が多かったことが主な要因である。年間を通してはほぼ前年度並みの利用率となった。 なお、大規模改修工事のため平成30年1月～3月は全館休館となった。												

(2) 利用料金収入 (単位:千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成29年度(A)	5,305	3,299	4,285	6,997	10,225	8,354	12,895	13,768	7,260	1,926	2,368	3,819	80,501
平成28年度(B)	8,171	4,824	5,559	8,690	8,247	12,954	9,407	9,948	7,449	2,946	1,003	3,205	82,403
(A)/(B)	64.9	68.4	77.1	80.5	124.0	64.5	137.1	138.4	97.5	65.4	236.1	119.2	97.7
増減要因等	大規模改修工事により、大・中ホールは平成30年1月～7月、その他施設は平成30年1月～6月が休館となるため、利用日から1年前までの予約時に前納される利用料金収入がなく、4～7月はいずれも前年度を下回った。一方、8月、10月、11月は比較的コンサート等の興業が多く、利用率が高かったため、前年度を大きく上回った。 1～3月は前年度同様、休館期間中のため附属設備利用料金収入は見込めなかったものの、翌年利用分が前納されたため、前年度を上回り、年間ではほぼ前年度並みの収入となった。												

(3) 利用料金見直しの状況(前年度と比べて)

見直しの有無	見直した場合はその内容
無	

(4) 開所日・時間の見直し等の状況(前年度と比べて)

開所日数	開所時間	見直しの有無	見直した場合はその内容
平成29年度(A):225日	平成29年度(A):9:00～21:30	無	
平成28年度(B):236日	平成28年度(B):9:00～21:30		

(様式2)

(5) サービス向上のため実施した内容

・格安料金でホールを利用いただく「ファミリー貸し制度」(利用日前40日以内で、条件が合えば大・中ホール、展示室の利用料が7割引きになる)を実施し、施設の利用促進に努めた。
 ・要望に応じて開館時間を早めるなど柔軟な貸館対応を行った。
 ・休館日は毎週月曜日であるが、繁忙月(10~11月)は休館日を隔週月曜の2日とし、休館日を開館した。
 ・長野市及び周辺地域に新聞折り込みで配布される週刊情報紙に月1回翌月の催物案内を掲載し、自主事業以外の催物についても広報した。
 ・受託販売事業として、アールブリュットグッズ(県内知的障がい者支援施設制作商品)の販売を行った。
 ・アンケート箱の設置、自主事業アンケート、利用者懇談会の開催等を通し、利用者の声をサービスに反映させた。

(6) その他実施した取組内容

(7) 利用者の主な声及びその対応状況

○駐車場について
 最も多く寄せられる駐車場の不足、それに起因する交通渋滞等の苦情については、公共交通機関の利用を会館ホームページやチラシ等で呼びかけた上で、若里公園等近隣公共施設の駐車場確保を行うとともに、満車の際は有料駐車場案内図配布により少しでも改善できるよう努めた。
 また、主催者や当日の誘導員との打合せを綿密に行ったほか、私有地への無断駐車防止を促す看板を掲示した。
 公演終了後に渋滞が予想される場合は、大型車両出入口の開放や、警察へ信号機の調整を依頼する等、排車時間の短縮を図った。

○エレベーターについて
 大ホールホワイエへのエレベーター設置の要望があったが、平成26年度にすでに設置済みであることから、位置が分かりやすいようにホワイエに掲示板を掲示した。

8 管理運営状況(実施状況及びそれに対する評価を記入)

※項目は施設の状況に応じ加除修正してください。

項目	指定管理者	所管課	評価
施設の目的に沿った管理運営	地域の文化拠点としてのホールを目指し、協定書、仕様書及び事業計画書に基づいた管理運営を実施した。	基本協定書、仕様書及び年度計画書に基づいた管理運営が実施されたと認められる。	B
平等な利用の確保	利用申し込み当たって、個人・団体に制限を設けていない。利用一年前の申し込み受付初日は、誰もが公平に利用できるよう、希望が重複する場合は抽選方式により決定している。	平等な利用が確保できたと認められる。	B
利用者サービス向上の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・開館時間前(午前9時以前)からの利用希望があった場合には、設備関係保守管理(含有人警備)及び清掃委託業者等と調整を行い、安心して利用していただけるよう適宜対応した。 ・催し物開催に当たっての事前打ち合わせや下見の受け入れについては、利用者の都合に応じられるよう配慮し、また快適に利用いただけるよう、ホール利用に関する提案を積極的に行った。 ・ホールの利用申し込み締め切り(40日前)を過ぎてからも、希望があれば、対応できる範囲で適宜受付を行った。 ・大・中ホールが対象のファミリー割引(70%割引)は、好評であり、主に学校関係の練習で利用されている。 ・ホームページの問い合わせフォームやお客さまアンケート箱の常設、利用者懇談会の開催等により、利用者の声を把握し、速やかな対応に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の要望に対して迅速かつ柔軟に対応し、サービスの向上に努めている。 ・館独自の割引制度を設け、利用率の向上を図る積極的な取組を行っている。 	A
自主事業	<ul style="list-style-type: none"> ○ウィーン楽友協会との姉妹提携事業 9月に6名の音楽家を招聘し、長野フィルハーモニー管弦楽団への指導・共演をはじめ、善光寺御奉納演奏会、野沢温泉村での室内楽演奏会、中南信地区高校生対象のセミナーを実施する等の事業を行った。 ○第九演奏会 第4回となる第九演奏会を12月に開催した。オーケストラ・アンサンブル金沢の演奏に加え、公募による約300名の合唱団と長野県出身の指揮者・ソリストも出演し、来場者1,600名と盛況な公演となった。 ○next 長野県若手芸術家支援事業(県受託事業) 「next 長野県若手芸術家支援事業」では、ウェブサイト運営するとともに、アーティストをホテルや学校、イベント等へ紹介し、活動の場を提供した。 ○信州文化会館ネットワーク事業(県受託事業) 1~3月の休館中には、「信州文化会館ネットワーク事業」にて、上方落語公演(青木村公民館)、チェロとピアノによる出前コンサート(長野市・若槻養護学校)を開催するなど、積極的にアウトリーチ事業を展開した。 ○信州の伝統芸能 今年度は下條歌舞伎の公演を行い、南信地区の伝統芸能を北信地区の県民に紹介した。触れる機会の少ない内容であったことから、参加者には好評であった。 ・その他、「長野県新人演奏会」「おやじバンドフェスティバル」「ホールとあそび」など、4~12月までの期間に幅広い分野で様々な世代に向けた事業を積極的に展開した。 	特色ある自主事業が実施されており、施設の設置目的に寄与している。	A

(様式2)

職員・管理体制	・常勤職員18名(プロパー11名、臨任職員1名、行政嘱託2名、嘱託員4名)、非常勤職員(館長)1名、臨時職員1名 計20名で管理運営を行った。 ・仕様書及び事業計画書に基づく職員配置を行った。	仕様書及び年度計画書に基づく適正な職員配置が行われている。	B
収支状況	・利用料金収入については、平成28年度から3期続けて大規模改修工事が行われ、各年3ヶ月の休館期間をいただいた。その影響により、平成27年度以前と比較して2割程度の減収が続いている。 ・支出面では、使用量の多い電気について、改修工事によるホール客席照明や舞台照明のLED化改修を実施し、また、電力会社との契約を見直す等、経費節減に努めた。	休館期間中においても、経費の削減に努め、効率的な館運営に取り組んでいる。	A
総合評価	幅広い世代の県民を対象に、様々なジャンルの自主企画事業を積極的に展開した。また、ウーン楽友協会との姉妹提携事業や伝統芸能公演など、毎年継続して事業を実施することにより、恒例行事として県民に認知されてきている。 利用者からの改善要望に対しては、真摯に向き合い、事業改善に繋がるよう努めた。 これらにより、公立文化施設としての在るべき姿を明示することができた。	おおむね仕様書等の内容どおりの成果があり、適正な管理運営が行われている。	B

<評価区分> A:仕様書等の内容を上回る成果があり、優れた管理運営が行われている。
B:おおむね仕様書等の内容どおりの成果があり、適正な管理運営が行われている。
C:仕様書等の内容を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要である。
D:仕様書等の内容に対し、重大な不適切な事項が認められ改善を要する。

9 施設管理運営の課題

項目	指定管理者	所管課
施設の管理運営の課題	・当館の大・中・小ホールを併せた収容人員は約3,500人であるが、それに見合う駐車場の収容能力はなく、大きなイベントの度に駐車場不足や公演終了後の渋滞や近隣店舗等への無断駐車が問題となっている。 ・建設から35年が経過し、施設や設備の各所に経年劣化に伴う不具合が生じており、順次改修が行なわれてはいるが、引き続き改修の促進に努めていく必要がある。 ・近年働き方改革がうたわれているが、文化会館は朝から夜遅くまで開館しているため、特に舞台技術職員の長時間勤務が連続する状況にある。また、不足する人員を外部の舞台技術者に委託しているが、他施設や催し物の主催者からの発注と競合するため、十分な人員確保が困難な状況にある。	・施設及び設備の劣化等の課題に対しては、県全体のファミリーマネジメントの中で計画的に修繕を行っていく。会館運営における修繕費の扱いについても、合わせてより効率的な運用をお願いしたい。 ・人員配置を工夫しつつ、必要な人員の確保に取り組んでいただきたい。 ・引き続き、特色ある自主事業を展開していただきたい。

10 第三者評価で指摘された事項の管理運営等への反映状況(第三者評価実施年度の翌年度以降に記載)

【実施年月日:平成27年12月17日】

第三者評価における指摘・意見等	管理運営等への反映状況	
	指定管理者	所管課
ウェブを活用した利用受付の申込みについて検討願いたい。また一般閲覧として利便性のある表示方法など、見せ方に工夫をするようにしてもらいたい。	ウェブからの申込み受付は行っていないが、利用者からの強い要望があれば検討していきたい。また、予約システムの修正は困難であるため、現状の中で工夫したい。	施設利用者の利便性向上に向けて、工夫されたい。
「ファミリー貸し制度」は稼働率を高める上で画期的な取り組みだと考えるが、利用件数が増加した場合、採算ベースが若干懸念される。	「ファミリー貸し制度」は、引き続き利用者へのサービスを維持しつつ、収支バランスがとれるよう検討していく。 吹奏楽コンクールに向けたホール練習として中学校・高校の利用が主であるが、近年は会場確保のため1年前に予約で埋まってしまったため、ファミリー貸しでの利用は減少傾向にある。	収支の状況も配慮しながら、引き続き利用者へのサービス向上に努められたい。
自主事業の情報発信が必要で、企画運営段階から近隣施設・組織との連携を密にすることで成果が明瞭になると思われる。	これまで以上に県立ホールにふさわしい事業展開が図れるよう、近隣組織と連携を深め、自主事業のPRIに努める。	近隣施設・組織と密に連携を取りつつ、さらに魅力的な事業の実施・発信に努められたい。
施設の老朽化、バリアフリー化等の問題を解決しながら、広く県民に開かれた施設として老若男女が集う施設であってほしい。		施設及び設備の劣化等に関しては、指定管理者と協議しながら、計画的な修繕に努めていく。